

さらなる発展に向け各種検討

テレメータリング推進協議会

住設機器

供給機器



定期定例総会・創立30周年記念式典は大勢が出席した

都市ガス・水道へ普及拡大 定期定例総会・創立30周年記念式典



土田泰秀会長



深澤充副理事長



照井恵光理事長

創立30周年を迎えたテレメータリング推進協議会

会（照井恵光理事長）は4月26日、東京都産業貿易センター浜松町館において、第22回定期定例総会を開催した。

同協議会は、少子高齢化・働き方の変化・エネルギー価格の高騰・脱炭素などの社会環境変化に対応するためのエネルギーインフラ関連業務のDX化や各種IoT関連サービス展開の動きは益々加速しており、その実現の一翼を担う重要インフラである集中管理システムについて、技術標準



記念式典では永年活動者・功労者の表彰が行われた。

制度見直しの効果を発展的に継続させるために、認定販売事業者エンブレム・盾の頒布等、地域の認定販売事業者との交流等を推進しながら、テレメータリングマイスター制度を確立する運動も併せて推進する。

①国内向けには特に都市ガス業界や水道業界に対して、集中監視システムの普及拡大施策を展開する。またグローバルな視野から我が国の集中監視システムの普及拡大状況やUバス・Uバスエアの技術を発信。特に台湾に対しては現地当局の活動を積極的に支援する。さらに、認定販売事業者

②「ライフラインの未来をかたちに2024」展示会やセミナーの一層の充実を図るとともに、研究報告会についても、リアルとオンラインのハイブリッドにより広く参加を募りつつ、地域都市ガス事業者や水道事業者ならびに電力事業者等のIoTサービスの導入事例を紹介する等、継続して事業者等のシステム・ユーザー側からのテーマ報告に重点を置き、それらに対するニーズや要望について議論を活発にする。

③UバスメーターやUバスエアの普及・拡大のための技術的課題の検討を推進していくとともに、具体的なUバスエアの資源管理・認証体制の整備を行う。さらに、制定した「電力SMシステムを活用した共同検針システム・フェイス仕様」についての認証仕様制定、認証体制等の整備を具体化する。

当日は創立30周年記念式典が行われ、永年活動功労者や特別功労者の表彰も行われた。式典の冒頭、照井理事長は同協会の30年の歴史を振り返りつつ「LPガス集中監視システムは当時150万個普及していたが、今では5倍以上になっており、30年で着実に普及し進化している」としたうえで、「2010年の名称変更によってLPガスの実施により、30年を振り返るとともに、協議会のさらなる発展に向けた各種検討を行う。

式典では、深澤充副理事長（NITテレコン社長）、土田泰秀東洋計器会長による記念講演も行われ、深澤副理事長は「テレメータリングの歴史を振り返って」と題して、①テレメ協の30年の変遷②NCUの変遷③テレメ協10大ニュース④未来の通信技術と生き方・働き方について、ユーモアに富んだ話を交えながら講演を行った。

④昨年度運用整理を行ったサイバーセキュリティガイドラインや解説を活用することで、集中監視システムのサイバーセキュリティ対策の啓蒙活動を推進し、より一層の進展を図る。

⑤創立30周年記念事業の実施により、30年を振り返るとともに、協議会のさらなる発展に向けた各種検討を行う。

土田会長は「テレメの進化・発展」と題して講演を行い、①第一期有線検針②第二期オール無線検針③第三期LPWA検針に分けて、現在までの流れを具体的な事例を交えながら振り返りつつ、今後への提言として地震情報の公示や余剰通報の回避について語った。

表彰者は以下の通り（敬称略）。

【永年活動功労者表彰】夜野治好▽竹澤裕信▽小野博雄▽羅知孝嘉

【特別功労表彰】照井恵光▽土屋十萬紀▽村岡清男（故人）